

指示詞コソアの指導の現状と運用能力調査*

— 韓国における日本語学習者を対象にして —

宋 晚 翼**

迫田久美子***

目 次

1. はじめに
 2. 韓国における指示詞コソアの指導の現状
 - 2-1. 教科書に見るコソアの扱い
 - 2-2. コソアに関する日本語教師の指導方法
 3. 指示詞コソアの運用能力測定の対話調査
 - 3-1. 調査の概要
 - 3-2. 調査の結果
 4. 終りに
-

1. はじめに

「上級レベルになってもコソアの使い方がおかしい。」これは韓国人学習者に日本語を教えている日本人の教師から良く聞かれる言葉である。例えば、(1. 1)のAをソにしまったり(1. 2)、(1. 3)のソをAにしまったりすると言われている。

(1. 1) A: 昨日のレストラン、よかったですか?

B: ああ、*そのレストランね。本当によかったよ。(宋、1999:121)

(1. 2) 沖縄から来た女の人は大きなオートバイ乗るんですよ、大きいですよ、オートバイが大きくて、*あの女の子も大きい。(迫田他、2001:7)

(1. 3) そうすればお金がなくなるでしょう。*あの時どうしますか。(田窪、1987:106)

また、(1. 4)のソを、ソでなくAであるべきだという学習者も多いし、(1. 5)のAをあり得ない用い方であるという上級の学習者も多いようだ。

* 본 논문은 2002학년도 한밭대학교 학술연구비에 의해 연구되었음.

** 한밭대학교 教授 日本語教育學

*** 廣島大學 教授 日本語教育學

(1. 4) 客 運轉手さん、そのビルの前に停めてください。

運轉手: はい、そこですね。

(1. 5) A: この本、ミラさんという人が書いたそうなんですが、どこの人ですか。

B: 君、あの先生を知らないのか。(金水・田窪、1992:115)

以上のような疑問の上、本稿では、現在韓国で行われているコソアの指導の現状を日本語教科書にみるコソアの扱いと日本語教師の指導方法という二つの視点から概観してみる。そして、そのコソアの指導の現状の概観を踏まえて、実際の韓国人学習者の指示詞コソアの運用能力はどうかをOPI(Oral Proficiency Interview)による対話調査で探してみる。

そして、指示詞コソアの習得に関する先行研究は宋(2002:8-10)を参照されたい。

2. 韓国における指示詞コソアの指導の現状

2-1. 教科書に見るコソアの扱い

韓国の大学の日本語教育に使われている42種類の教科書(初級用22、中級用16、上級用4種類)の中で、文法・文型項目としてのコソアがどのように扱われているかを調べてみた。その結果を整理すると(2. 1)のようである。

(2. 1) 日本語教科書に見られるコソア項目の扱い

番号	教科書名	出版(国)	学習レベル	出版(年)	出版社	著者	現場指示	文脈(非現場)指示
1	新編 日本語	韓国	初級	1993	蚕雪出版社	李賢起	両指示詞の対照、距離区分	なし
2	NETWORK 日本語	"	"	1997	지사일본어사	韓日日語日文學會	両指示詞の対照、距離区分	なし
3	현대일본어연구 I、II	"	"	1995	不二文化社	인하대	両指示詞の対照、距離区分、 繩張り	なし
4	大學日本語	"	"	1999	蚕雪出版社	박정희	両指示詞の対照、距離区分	なし
5	みんなの日本語	"	"	1999	지사일본어사	田中よね他	両指示詞の対照、繩張り	なし
6	日本語會話	"	"	1994	일본어뱅크	박순애 他	両指示詞の対照、距離区分	なし
7	일본어회화 입문	"	"	2001	제이엔씨	전성훈	両指示詞の対照	なし

8	실용일본어 초급회화	*	*	2001	다락원	吉本一	兩指示詞の對照	なし
9	2) 과로된 진영 일본어 회화	*	*	1999	진영	박혜성	兩指示詞の對照	なし
10	日本語初歩(國際交流基金)	日本	*	1986	凡人社	鈴木忍他	距離區分、繩張り	なし
11	大學教養日本語	韓國	*	1994	叢雪出版社	閔聖澤他	兩指示詞の對照、距離區分	なし
12	커뮤니케이션 일본어 I	*	*	2001	사람 in	박순애 他	兩指示詞の對照、繩張り	なし
13	처음 in 일본어	*	*	2001	사람 in	關陽子	兩指示詞の對照	なし
14	日本語 初級 讀解	日本	*	2000	アルク	因京子 他	なし	なし
15	現代日本語	韓國	*	2000	不二文化社	黃虎哲	兩指示詞の對照、距離區分	なし
16	文化初級日本語 I、II	日本	*	1991	凡人社	文化外國語專門學校日本語科	繩張り	共有知識
17	繪でマスター	*	*	2000	凡人社	村野良子	繩張り	なし
18	일본어 표현노트(기초편)	*	*	2001	다락원	宮本淳他	繩張り	なし
19	大學日本語	韓國	*	1994	叢雪出版社	金順祺	兩指示詞の對照、距離區分	なし
20	大學教養日本語	*	*	1993	叢雪出版社	孫大俊他	兩指示詞の對照、距離區分	なし
21	PRO 니종고	*	*	1997	시사일본어사	민영수 他	兩指示詞の對照	なし
22	Top Japanese 1、2	*	*	2001	시사일본어사	송미혜 他	距離區分、繩張り	なし
23	日本語中級	*	中級	1997	시사일본어사	關正昭他	兩指示詞の對照	なし
24	日本語會話中級	*	*	2001	다락원	二日市狀他	なし	なし
25	中級から學ぶテーマ別日本語	*	*	1994	研究社	荒井礼子他	なし	なし
26	現代日本語コース中級 I、II	日本	*	1989	名古屋大學出版會	名古屋大學總合言語センター	なし	共有知識(回想)
27	日本語 中級 讀解入門	韓國	*	2000	다락원	富岡純子他	なし	なし
28	日本語初級	日本	*	1997	スリーエネットワーク	名古屋YWCA教材作成グループ	距離區分(殊に、中称のソ)、繩張り	共有知識
29	COUPLE JAPANESE	*	*	1998	武藏野書院	秋玉美晴他	なし	なし
30	비즈니스 일본어	韓國	*	1999	시사일본어사	민영수 他	なし	なし
31	日本語で學ぶ日本語	日本	*	1995	大修館	黒羽末司	距離區分	共有知識
32	日本語中級	*	*	1991	東海大學出版會	東海大學留學性教育センター	なし	なし
33	中級日本語 I、II	韓國	*	1997	韓國外國語大學校出版部	日本語科教材編纂委員會	なし	なし
34	季節で學ぶ日本語	日本	*	2001	アルク	寺田和子他	なし	なし
35	日本語表現文型200	*	*	2000	*	友松悦子他1	距離區分、繩張り	共有知識
36	日本語表現文型中級 I、II	*	*	1995	凡人社	筑波大學日本語教育研究會	距離區分	なし
37	도쿄 현장일본어	韓國	*	1998	不二文化社	이성규	なし	なし
38	日本語 讀解	*	*	1992	叢雪出版者	鄭昌銅	兩指示詞の對照、距離區分	なし
39	日本語上級讀解	日本	上級	2000	アルク	柿倉郁子他	なし	なし
40	日本語上級ジャンプ	*	*	1995	研究社	長田龍典他	なし	なし
41	自然な日本語 II	*	*	1991	凡人社	櫻井晴美	なし	なし
42	日本語教科書上級	日本	*	1988	早稲田大學印刷所	早大日本語研究教育センター	なし	なし

どのようなシラバスの教科書であろうと、コソアの文法・文型項目は初級用の入門期に取り扱われている。初級用22種類の中の21種類(95%)の教科書でコソアの現場指示用法が提示されており、その具体的な内容を見ると現場で知覚できる指示対象の指し示し方を「繩張り説」¹⁾あるいは「距離區分説」²⁾をもって示している。そして、漢字仮名混じりとハングル(韓國語)文字が混用して表記されている教科書の場合、ほとんど兩語の指示詞を對照させて、「コ」は「ⁱ이」に「ソ」は「^{geu}그」に「ア」は「^{ieo}저」に對応しているとしている。しかし、文脈(非現場 指示と言われるコソア用法はあまり見られない。全体42種類の教科書の中で、初級用1種類と中級用4種類にソとアの「共有知識説」³⁾が提示されているだけである

- 1) 「繩張り説」とは、現場の指示対象が話し手の勢力範囲(領域)に属する場合はコ、聞き手の勢力範囲(領域)に属する場合はソ、兩勢力範囲(領域)に属さない場合はアで指し示すという説である。
- 2) 「距離區分説」とは、現場の指示対象と話し手との距離の差によって、近いところにある指示対象はコ、近くも遠くもない指示対象はソ、遠いところの指示対象はアで指し示すという説である。
- 3) 「共有知識説」とは、(2. 2)、(2. 3)のように兩者話し手と聞き手がともに指示対象を知っていると想定している時はアを用い、(2. 4)、(2. 5)のようにそうでない時はソを用いるという概念規定のことである。

- (2. 2) A: 今朝田鹿君に會った。あの人は随分変わった人だね。
 B: そう、あいつは変人ですよ。
- (2. 3) A: 君、あの件は片付いたかい。
 B: はい、片付きました。(堀口、1978b:34)
- (2. 4) A: おいしいレストランを見つけたんですが、一緒に行ってみませんか。
 B: ええ、それはどこにあるんですか。(今井、1995:68)
- (2. 5) ぼくの友だちで酒が一滴も飲めない鈴木ってのがいるんだけど、そいつの奥さんがすごい飲んべえなんだ。

。他の37種類(88%)の教科書は文脈(非現場)指示に⁶関するコソア項目は全く扱っていない。

2-2. コソアに関する日本語教師の指導方法

韓国の大學で教えている13人の日本語教師にコソア用法の指導法について質問紙調査を行った。その結果を整理すると(2. 6)のようである。

(2. 6) コソア用法の指導方法についての質問紙調査の結果(n=13)

(1) 現場指示を教える。	12/13	92%
(2) 非現場(文脈)指示を教える。	7/13	54%
(3) コソア用法には現場指示と非現場(文脈)指示があるので、その指導は現場指示用法と非現場指示用法に分けて教える。	7/13	54%
(4) 現場指示は「距離区分説」だけで教える。	2/13	15%
(5) 現場指示は「繩張り説」だけで教える。	2/13	15%
(6) 現場指示は「距離区分説」と「繩張り説」の両方とも教える。	3/13	23%
(7) 現場指示は「コ」が「 ⁱ 오」に「ソ」が「 ^{geu} 그」に「ア」が「 ^{jeo} 저」に対応していると教える。	5/13	38%
(8) 非現場(文脈)指示を教えるが、場当たりに教える。	4/13	31%
(9) 非現場(文脈)指示は「共有知識説」で教える。	5/13	38%
(10) 非現場(文脈)指示は「共有知識説」と「回想説」で教える。	1/13	8%

ほとんどの日本語教師によってコソアの現場指示用法の指導が行われている。その方法を見ると「距離区分説」と「繩張り説」⁵が各々2人(15%)ずつ、両説をともに教えると答えた日本語教師が3人(23%)である。そして、38%に当たる5人の教師は韓国語の指示詞「ⁱ오・^{geu}그・^{jeo}저」と比較して、「コ」が「ⁱ오」に「ソ」が「^{geu}그」に「ア」が「^{jeo}저」に対応していると教えるという。

しかし、実際には対応していない場合もあるわけで、例えば例文(1. 3)のような中称のソは「^{geu}그」ではなく「^{jeo}저」に対応しているのである。そのことを指導に含んでいる教師は1人(8%)だけである。後の12人(92%)の教師はそのことを見逃したりあるいは省いたりするようである。

また、現場指示用法とともに文脈(非現場)指示用法も教えると答えている日本語教師は7人(54%)だけである。文脈(非現場)指示を教えていない、あるいは、言及を控えている教師が6人(46%)もいる。しかも、教えている教師7人(54%)の中で4人(31%)は、学習項目として取り上げるのではなく、日本語を⁴教えている際にたまたま出てきたソとアについて「共有知識説」あるいは「回想説」⁴⁾で韓国語の「^{geu}그」に当るソとアの使い分けを教えるという。

以上、現在韓国で行われているコソアの指導の現状について、大學で使われている日本語教科書の分析と日本語教師に対する質問紙調査を通して探ってみた。その結果から問題点として以下の4点が

(金水、1990a:64)

4) 「回想説」とは、(2. 7)、(2. 8)のように、聞き手が知らない対象でも話し手の過去の知識・経験のイメージを強く引き起こしたいと想定した時アを用いるという概念規定のことである。

(2. 7) 今朝、驛前で事故があったんだ。あの様子じゃ運転手も怪我したんじゃないかな。

(2. 8) A: バスの中で、素敵な人に會ったわよ。

B: ふふん

A: あの人にもう一度會えないかしら。(『現代日本語コース中級Ⅱ』、1989:235)

明らかになった。

- (1) コソアの²意味や用法を体系的に扱っていない。
- (2) 殊に、現場指示³の中称のソと、非現場指示のソとアの用い方に⁴関して適切に扱われていない。
- (3) 日韓両言語の指示詞コソアと「이・그・저」¹の体系^{geu}の類似性に依存して教える傾向⁵が見られる。
- (4) 用法に⁵関する概念規定が明確に示されていない。

以上の指示詞コソアの指導の現状の概観を踏まえて、以下では実際の韓国人学習者の指示詞コソアの運用能力はどうであるかをOPI(Oral Proficiency Interview)による対話調査で探してみる。

3. 指示詞コソアの運用能力測定のための対話調査

3-1. 調査の概要

- (1) 調査の目的: 韓国における韓国人日本語学習者の会話に見られる指示詞コソアの運用能力を調査する。
- (2) 調査の時期及び対象: 1998年9月、韓国某国立大学の大学生44人。日本語学習経験2~4年で、いずれも観光を除き日本へ長期滞在した経験はない。
- (3) 調査方法及び被調査者の学習レベル定め: ACTFL(American Council of Testing Foreign Languages)の基準に基づいたOPI(Oral Proficiency Interview)の測定方法によって Novice(初級)から Superior(超級)までのレベルに判定する。その結果をもとに被調査者44名を便宜的に上位(upper)グループ(9人)、中位(middle)グループ(25人)、下位(lower)グループ(10人)の3グループに分ける。
- (4) 調査者: OPI(Oral Proficiency Interview)の測定資格を有する日本語母語話者。

3-2. 調査の結果

OPI(Oral Proficiency Interview)による被調査者のレベル判定とコソアの使用数などの運用の状況を整理すると(3. 1)のようである。

- (3. 1) OPIによるレベル判定とコソアの運用(使用数等)

No.		Name	OPI level	KO	SO	A	Notes
6	上位 グループ	SHL	Superior	2	26	1	ア=相対的課題指示のソ 来日経験あり
19		HKJ	Adv-low	4	15	2	ア=相対的課題指示のソ 来日経験あり
24		CJH	Adv-low	1	5	3	ア=相対的課題指示のソ 友人あり/ビデオを見る
42		YMH	Int-upper	6	2	4	ア=相対的課題指示のソ ビデオをよく見る
10		PJE	Int-upper	4	11	4	ア=相対的課題指示のソ ビデオをよく見る
23		KEO	Int-upper	0	0	0	
15		KJS	Int-upper	3	23	0	
16		LJY	Int-upper	5	7	0	
2		YSY	Int-upper	2	35	0	
9	中位 グループ	KHS	Int-mid.	1	20	1	ア=相対的課題指示のソ 来日経験あり
37		PAJ	Int-mid.	1	13	2	ア=相対的課題指示のソ 迷う
25		KJS	Int-mid.	6	5	1	ア=相対的課題指示のソ
38		KJM	Int-mid.	3	7	0	
39		KHY	Int-mid.	7	1	0	
40		SYL	Int-mid.	1	0	0	
33		CJ	Int-mid.	0	0	0	
34		IY	Int-mid.	6	11	0	
27		CYM	Int-mid.	1	4	0	
20		PJY	Int-mid.	0	3	0	
1		IJY	Int-mid.	1	3	0	
3		YSS	Int-mid.	0	25	0	
4		JMS	Int-mid.	4	22	0	
14		JYK	Int-low	29	5	2	ア=相対的課題指示のソ ビデオをよくみる
7		OSH	Int-low	0	13	0	
8		SGS	Int-low	1	1	0	
12		LMH	Int-low	0	12	0	
13	YSY	Int-low	0	11	0		
17	LKW	Int-low	0	17	0		
21	中位 グループ	KEJ	Int-low	1	3	0	
22		KW	Int-low	8	0	0	
28		SSH	Int-low	4	3	0	
35		PS	Int-low	0	2	0	
36		KY	Int-low	0	0	0	
44		SSH	Int-low	0	0	0	
41	下位 グループ	SPY	Nov-upper	1	0	1	言い淀みの「あの…」かもしれない
31		PEM	Nov-upper	0	3	1	「ソ→ア→ソ」と直す(迷っている)
5		HYL	Nov-upper	0	1	0	
11		LY	Nov-upper	0	1	0	
18		KHJ	Nov-upper	0	4	0	
30		SHJ	Nov-upper	1	0	0	
32		RSA	Nov-upper	0	0	0	
29		ISH	Nov-upper	0	0	0	
26		PMS	Nov-upper	0	1	0	
43	FR	Nov-mid.	0	0	0		

計 103 315 22

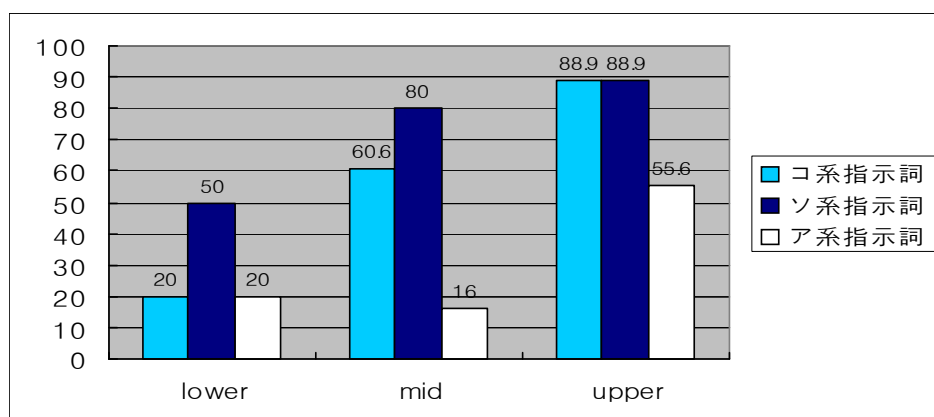
調査の結果は以下の五つにまとめることができる。

(1) 学習レベルが上がるにつれてどの系列も指示詞を使用する学習者の割合が増加する(表(3. 2)と図(3. 3)参照)。

(3. 2) 学習レベル別指示詞の使用の割合(表)

	下位グループ (n=10)	中位グループ (n=25)	上位グループ (n=9)
コの使用	2人(20.0%)	15人(60.0%)	8人(88.9%)
ソの使用	5人(50.0%)	20人(80.0%)	8人(88.9%)
アの使用	2人(20.0%)	4人(16.0%)	5人(55.6%)

(3. 3) 学習レベル別指示詞使用の割合(図)



そして、指示詞コソアの総使用回数の比較（下位グループ一人平均1.4回、中位グループ一人平均10.4回、上位グループ一人平均18.3回）からも、会話の運用レベルが上がれば上がるほど指示詞コソアが多く用いられているということが明らかになった。しかしながら、(3.1)からも分かるように同じ学習レベルのグループの中でも使用回数の差がかなりあり、コソアの使用は各個人の話し方によることも大きいことが分かる。

(2) 被調査者44人が用いている³⁾指示詞コとソとアを各々全部合わせるとソ(315回、72%)、コ(103回、23%)、ア(22回、5%)の順に用いられている。ソの割合が最も高いのは対話の中の先行詞を指し示す「その〜」、「それ」を多く用いているからであると思う。

反面、アは非常に少ない。⁴⁾その理由としては次の二点が考えられる。①前節の「韓国における指示詞コソア教育の現状」で指摘した通り、非現場指示の「⁵⁾コ」に当たる「ソとア」の使い分けに関する概念の理解が明確でないからである。②アの用い方を知っているとしても、本調査のOPIによる会話の場⁵⁾合は、被調査者と調査者との共有の知識・経験があまりないため「共有知識説」の「共有のア」(話し手と聞き手両者が共に知っている想定する経験的知識・記憶を指示する時用いるアのことである。)が現れにくいからである。

(3) 被調査者44人が用いているコソアによる指示表現はほとんど非現場指示用法のものである。具体的には、非現場指示用法の中にも相対的話題指示⁵⁾と単純照応指示⁶⁾である。即ち、本研究のようなO

5) 「相対的話題指示」とは、話し手と聞き手の表現内容にある、話題性のある経験的知識・記憶の対象を指し示す時の非現場指示用法のことである。この時、普通、両者(話し手と聞き手)が共有する経験的知識・記憶の対象はア、共有していない経験的知識・記憶の対象はソを用いる。

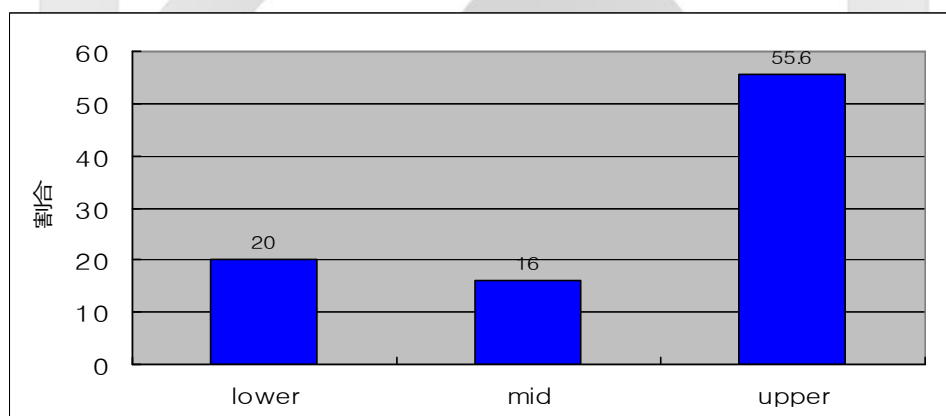
6) 「単純照応指示」とは、両者(話し手と聞き手)の経験的知識・記憶とは関わりのない単なる文脈の言語的な素材を指示する非現場指示用法のことである。この時、普通、ソを用いる。

PIによる会話の場合では、現場で直接指示す運用の機会もあまりないし一人ずつぶやいたりする獨話の機会もないから、コソアの現場指示用法と獨立的話題指示用法⁷⁾は現れにくいことが明らかになった。

(4) アの使用は、下位グループ³2人(20.0%)、中位グループ4人(16.0%)、上位グループ⁴5名(55.6%)が用いている(表(3.4)参照)。下位・中位グループで使用の割合が低いのに對し、上位グループで使用の割合が高いのが分かる。しかしながら、これらすべてのアが誤用であることに注目したい⁴⁾。

例えば、(3. 5)と(3. 6)は上位グループの被調査者、(3. 7)は中位グループの被調査者、(3. 8)は下位グループの被調査者の⁵誤用例である。すべて相對的話題指示のソ(「非共有のソ」のことで、話し手と聞き手両者が共に知っているとは言えない經驗的知識・記憶を指示する時用いるソのことである。)で指⁵示すべきところを相對的話題指示のア(「共有のア」のことである。)にしている(表(3. 1)の⁶「Notes」参照)。殊に、下位グループの被調査者の會話例(3.8)はおもしろい。最初はソと言ったのをすぐアに直す。その後すぐ調査者の「それもう一回」という確認に、そのアをまたソに直している。ソかアか、迷っているわけである。即ち、ここでも前節の「韓國における指示詞コソア教育の現状」で明らかになった非現場指示の「⁶コ」に当たる「ソとア」の使い分けに關する理解不足が明確に現れていると言える。

(3. 4) 學習レベル別アの使用(誤用)の割合(%)



(3. 5) NS(調査者、以下省略: あの、小學校とか中學校の、先生で、好きな先生がいますか。

CJH: ええ、小學校、あー小學校の時に、あの一、男の先生が、いました。その先生は、あの時に結婚しないで、學生だけと思って、私が學生に何を、何をするといいかなと思った先生だから、みんな好きでした。(筆者が傍線を付け加えた、以下省略。)

(3. 6) NS: 韓國の映畫

YMH: いいえ、日本の映畫です。

NS: どんな話ですか?

YMH: んー、ある女性が、死んだ戀人を、ん、あー、二人の女性が出ます。一人が二つの役をします。

NS: はい、分かりました。

7) 「獨立的話題指示」とは、聞き手がいない「場」の状況の中で、話し手の觀念の中に浮かべている話題性のある經驗的知識・記憶の素材を指示する時の非現場指示用法のことである。この時、普通、アを用いる。

YMH: 死んだ戀人の、あー、あの女性が、ある男性の戀人です。

(3. 7) PAJ: それから、あの一、2時間とか4時間ぐらい、授業が終わって、終わってから、んー、あの日は
 學校で勉強する日もあるし。

... (中略) ...

PAJ: 私が中學2年生のとき、私の先生でしたが、その先生は社會、社會、 んー、その
 先生が教えている科目は社會で、あーその先生はその時、 あー、あの時、32
 才、1才、2才で、 まだ結婚しないでいる、女の先生でした。

(3. 8) PEM: (中學校の時)こっこ(國語)の先生が好きです。んー、その先生は。

NS: ん?

PEM: お、あの先生は。

NS: それもう一回。

PEM: その先生。

NS: あ、どっち?、聞こえなかったの、うん。

PEM: あー、こっこ(國語)を教えて、いる先生。

一体このような誤用現象はなぜ起きるのか。

アを用いている被調査者に關する以下の二つの共通点から、誤用の原因を探ることができる。一つ目は、アの用い方を正しく理解していないうちに、正しいかどうかは別にして自ずからソを用いるべきところをアにしてしまう点である。二つ目は、誤用のアを用いている被調査者は、表(3. 1)の「Notes」からも分かるように、來日経験があったり日本人の友達がいるたり日本のビデオをよく見たりして、他の被調査者よりより自然な生活の中の日本語に多く接しているようである。言い換えれば、アを用いている被調査者は、他の被調査者より生活の中の生々しい日本語を通してアに接する機会が多かったと判断される。

従って、會話におけるアの誤用はある程度日本語の會話の運用能力が進んでいながら、正しいアの用い方をまともに身につけるための學習者一般に現れるコソアの習得の一過程としてのdevelopmental error⁸⁾ではないかと考えられる。

4. 終りに

以上、韓國における指示詞コソアの指導の現状を踏まえて、OPI(Oral Proficiency Interview)によるコソアの運用能力測定の對話調査を行った。その結果、會話の運用レベルが上がれば上がるほどコソアが多く用いられる、コとソとアの中でソの使用が最も多く反面アは非常に少ない、ほとんどのコソアが非現場指示用法のものである、上位グループではアを使用する割合が増加すると同時にソを用いるべきところをアにする誤用現象も増えている、ということが明らかになった。殊に上位グループになって多く見られるアの誤用現象は奇妙で、上達の一過程として見なされる、いわゆる「退行ではない退行現象」と捉えることができよう。そして、「韓國における指示詞コソアの指導の現状」で問題

8) developmental error とは、第二言語習得における誤りの分類の一つで、發達上の誤りのことである。その言語を母語として習得する子供の發達段階に見られる誤りで、第二言語習得において學習者の母語とは無關係に現れるものである。

点として指摘した「ソとア」に関する不適切な扱いと両指示詞の類似性に依存する教え方の影響が、コソアの習得において「アの使用の少なさ」と「アの誤用現象」で現れているとも言える。

最後に、本調査は限定された一集団に対してOPIによるコソアの運用能力の調査であったが、今後は、実際のコソア指導の効果の検証も含んだ横断的研究を行うことによって、第二言語習得研究の信頼性を高めたいと思う。

【参考文献】

- ・ 今井新悟(1995) 「日本語の指示詞の特徴」『日本語学』14-7、明治書院、pp.61-70
- ・ 梅田博之(1982) 「朝鮮語の指示詞」『講座日本語学2 外国語との対照Ⅲ』明治書院、pp.173-184
- ・ 田窪行則(1987) 「誤用分析1」『日本語学』6-4、明治書院、pp.104-107
- ・ 金水敏(1990a) 「指示詞と談話の構造」『言語』19-4、大修館書店、pp.60-67
- ・ 金水敏(1990b) 「方向と選擇-コチラ類の指示詞-」『日本語学』9-3、明治書院、pp.20-30
- ・ 金水敏 田窪行則編(1992) 『指示詞』ひつじ書房
- ・ 迫田久美子他(2001) 『日本語学習者の文法習得』大修館書店
- ・ 迫田久美子(2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- ・ 宋晩翼(1999) 한국인 학습자에 대한 비현장 지시 소와 아의 지도」『日本語文学』第7輯、日本語文学會、pp.111-128
- ・ 宋晩翼(2002) 「韓国人日本語学習者の指示詞コソアの習得研究 - 設問紙テストの調査結果に基づいて-」『日本文化学報』第13輯、韓国日本文化学会、pp.7-25
- ・ 堀口和吉(1978a) 「指示語『コ・ソ・ア』考」『論集日本文学日本語 現代』角川書店、pp.137-158
- ・ 堀口和吉(1978b) 「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8号、大阪外国語大学、pp.23-44

(教科書)

- ・ 現代日本語コース中級Ⅱ(1989) 名古屋大学出版会

要 旨

本論は、まず、韓国で行われている⁴コソアの指導の現状を教科書にみるコソアの扱いと教師の指導方法という二つの視点から概観³してみた。その結果、コソアの意味や用法を体系的に扱っていない、殊に現場指示の中称のソ³と非現場指示のソとアの用い方に関して適切に扱われていない、指示詞コソアと「¹이・²그・³저」の体系の類似性に依存して教える傾向が見られる、用法に関する概念規定が明確に示されていない、ということが明らかになった。

そして、コソアの指導の現状を踏まえて、実際の指示詞コソアの運用能力はいかなるものかを探ってみた。その結果、会話の運用レベルが上がれば上がるほどコソアが多く用いられる、コとソとアの中でソの使用が最も多く反面アは非常に少ない、ほとんどのコソアが非現場指示用法のものである、上位グループではアを使用する割合が増加すると同時にソを用いるべきところをアにする誤用現象も増えている、ということが明らかになった。殊に上位グループになって多く見られるアの誤用現象は、上達の過程として見なされる、いわゆる「退行ではない退行現象」と捉えることができよう。そして、「コソアの指導の現状」で指摘した「ソとア」に関する不適切な扱いと両指示詞の類似性に依存する教え方の影響が、コソアの習得において「アの使用の少なさ」と「アの誤用現象」で現れていることが分かる。

キーワード：コソアの指導の現状、OPIによる対話調査、コソアの運用能力、
「ソとア」の使い分け、アの誤用現象、退行ではない退行現象

투 고 : 2004. 2. 28
1차 심사 : 2004. 3. 13
2차 심사 : 2004. 4. 3



住 所 : 대전시 유성구 덕명동 한밭대학교 외국어학부
電 話 : 042-821-1351
E-mail : mesong@hanbat.ac.kr

к с і